

CからCへ

(Let's Change This Crisis into Chance)

この休業中、自分は何ができるのか、どう活用するか考えよう！

休校延長の今こそ本を読もう

(4月26日 朝日新聞)

【特集】休校延長の今こそ読もう



出口治明さん(立命館アジア太平洋大学=APU=学長)

我らホモ・サピエンスは誕生してわずか20万年、対するウイルスは数十億年の歴史を持つ生物界の大先輩。英国の生物学者リチャード・ドーキンスが語るように、パンデミックは人間にはコントロールできません。でも必ず終わります。終

わった後に何が起るか。14世紀のペストはルネサンスを生みました。今回も企業ではテレワーク、学校ではオンライン授業が進んでいます。社会のITリテラシーは間違いなく上がるでしょう。人間はどんなことにもチャレンジできる。グローバルな信頼と連帯がウイルスに勝つ鍵です。

『モモ』を読むと、時間や空間を超えて想像力の翼を広げる楽しさがわかります。『いいなづけ』は今と同じようなベストのパンデミック状況下で、当時の人がどう対応したのかわかる。『知ろうとすること』は科学的リテラシーを高め、フェイク情報をどう見破るかを考える。『キングダム』の登場人物はみんな個性的、クラスのだれに似ているなどと想像して読むと楽しい。

①『モモ』(岩波少年文庫)ミヒャエル・エンデ(著)大島かおり(訳) 対象:小学生 中学生 高校生以上

②『いいなづけ』(河出文庫)アレックス・マンゾーニ(著)平川祐弘(訳) 対象:高校生以上

③『知ろうとすること』(新潮文庫)早野龍五、糸井重里(著) 対象:中学生 高校生以上

④『キングダム』(ヤングジャンプコミックス)原泰久(著) 対象:小学生 中学生 高校生以上



安河内哲也さん(東進ハイスクール講師)

①『小さいことによくよするな!』(サンマーク文庫)リチャード・カールソン(著)小沢瑞穂(訳) 対象:中学生 高校生以上
日米で大ベストセラーになった本です。英語力に自信がある人は、英語版と併せて読んでみてもよいでしょう。大

学受験の英語の試験問題で引用されることもあります。レベルは英検準1級くらいで、読みやすい英語です。短いエッセーで、前向きになれる方法がたくさん紹介されています。

②『きまぐれロボット』(角川文庫)星新一(著) 対象:小学校高学年 中学生 高校生以上

星新一氏のSF短編は、勉強の合間の息抜きに読んでみるとよいでしょう。ちょっとしたユーモアが前向きな気持ちを高めてくれます。かなり前に書かれたものですが、実現している技術とかぶるものも多く、その先見性に驚かされます。

③『トビタテ!世界へ』(リテル)船橋力(著) 対象:高校生以上
今や留学の代名詞ともなっている「トビタテ」ですが、これは民間企業と文部科学省が協力して立ち上げた斬新な試みです。なぜ、日本でこのような試みが可能になったのか、どうして留学が人生を変えるのか、様々な視点から述べられています。将来留学したい人は必読です。

④『友情』(新潮文庫)武者小路実篤(著) 対象:高校生以上

⑤『勉強法 THE BEST プロが厳選!最強ノウハウ100』(あさ出版)安河内哲也(著) 対象:中学生 高校生以上



書影撮影/
岸本純

佐藤亮子さん(朝日新聞受験アドバイザー)
『フランス革命 歴史における劇薬』(岩波ジュニア新書) 遅塚忠躬(著)

対象:中学生 高校生以上

フランス革命を世界史のキーワードとして理解するのに役立つだけでなく、読み手の「なぜ?」を解決してくれる本です。教科書に出てこないような人物や、参考書の行間を説明するような事柄も登場します。マリー・アントワネットやルイ16世など、登場人物が有名かつ華やかなので、想像しながら楽しく読めます。歴史は重要事項をただ覚えるのではなく、人間の営みが確かにそこにあったと感じ取れることが大切です。歴史が立場によってまったく違う様相を呈するものだとわかれば、より人間味を帯びた、非常におもしろいものになるでしょう。ヨーロッパの話ですが、日本のこれからを考えるヒントにもなります。